

第1章

地上気象観測

0 観測とは

気象業務法において「観測」とは、「自然科学的方法による現象の観察及び測定」のことをいいます。現在、日本で行われている観測には以下のような種類があります。

- ・地上気象観測（アメダスなど）・・・本章
- ・高層気象観測（ラジオゾンデなど）・・・第2章
- ・レーダー気象観測（気象レーダー／ウィンドプロファイラなど）・・・第3章
- ・気象衛星観測（ひまわりによる宇宙からの観測）・・・第4章

1 地上気象観測の概要

全国に155ヶ所ある気象官署（气象台や測候所など）では、さまざまな気象測器を用いて気温や風・降水量など地上気象の観測を行っています。さらに、日本国内では自動で観測を行う地域気象観測システム（^{アメダス}AMeDAS：Automated Meteorological Data Acquisition System）が設置されています。

(1) アメダス（AMeDAS）の詳細

アメダスは観測項目の数に応じて次のように分けられます。（2025.12 現在）

アメダス	降水量	気温	風	湿度	積雪深	地点数
4要素観測所	○	○	○	○		687
3要素観測所	○	○	○			73
雨量観測所	○					370
積雪深観測所					○	334

※「4要素」はかつて「降水量＋気温＋風＋日照」でしたが、2020年から「降水量＋気温＋風＋湿度」に変更となったことに注意。